

令和2年度 通常総会・資料

ながの環境パートナーシップ会議

日時：令和2年8月6日(木)午後6時から

場所：長野市ふれあい福祉センター5階 大ホール

ながの環境パートナーシップ会議通常総会次第

日時：令和2年8月6日（木）午後6時から

場所：長野市ふれあい福祉センター 5階 大ホール

1 開 会

2 代表理事あいさつ

3 議長選出

4 議 事

(1) 令和元年度活動報告について

①ながの環境パートナーシップ会議の活動概要 (P 1～)

②プロジェクトチームの活動報告 (P 8～)

プロジェクト名	R1 活動報告 ページ	R2 目標・活動 計画等 ページ
生ごみ削減・再生利用	9	26
レジ袋使用削減	10	—
市民の森づくり	11	27
太陽エネルギー普及促進	12	28
聖山自然復元	—	—
子どもの環境学習支援	13	29
ながのカーボンオフセット	—	—
小生物の育成環境保全	14	30
生態系豊かな、水に親しめる川づくり	15	31
ぼんすけ育成	16	32
ゴマシジミ保護・育成	17	33
田中さくら公園作り&里山づくり	18	34

(2) 令和元年度収支決算報告について (P 19～)

令和元年度監査報告について (P 20～)

(3) 令和2年度運営方針(案)について (P 21～)

(4) 令和2年度活動目標・活動計画(案)について (P 25～)

(5) 令和2年度収支予算(案)について (P 35～)

(6) 会則の一部改定について (P 36～)

(7) 役員（理事）の選任について (P 37～)

(8) その他

5 閉 会

令和元（2019）年度ながの環境パートナーシップ会議活動報告書

活動の概要

令和元（2019）年度は、長野市の環境ビジョンの実現に向け「つなぐ・伝える・行動する」を行動指針とし、プロジェクト、フォーラム、広報活動などに取り組みました。また、平成29年度に見直しを行った、本会の行動指針である「アジェンダ21ながの-環境行動計画-」に基づき、事業者・他団体との連携など、新たな協働による環境活動を展開しましたが、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染拡大により活動に大きな影響がありました。

1 各プロジェクトの活動

(1) プロジェクト及びスペシャルプロジェクトへの取り組み

① 生ごみ削減・再生利用プロジェクト

キッズ生ごみ農園クラブを創設してから4年が経過。生ごみの堆肥を利用して野菜を収穫し、夏と収穫祭を開催したほか、生ごみと野菜の交換市を定期的に開催、朝市で野菜の販売もできました。また、各種イベントに参加（信州環境フェア及びアモーレフェスタにて展示説明、プレゼンステージ「楽しい生ごみ教室」、クイズ等）し、啓発活動を実施しました。

令和元年東日本台風により農園が甚大な被害を受け、秋から冬の活動にかけてキッズ生ごみ農園に大きな影響がありましたが、農地と堆肥場の復興・復旧に一步步み続けております。

② レジ袋使用削減プロジェクト

マイバッグ持参の取り組みが浸透し、マイバッグ持参率が4年連続60%を超えました（令和元年度：65.4%）。

2月に予定していた「海ごみ対策地域リーダー養成講座」については、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため中止となりました。

③ 市民の森づくりプロジェクト

令和元年度は里山散策、高校生の森林整備体験などの活動を実施しましたが、令和元年東日本台風災害のため、かんじき体験会が中止となり、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、きのこの駒打ち体験会が中止となりました。また、令和元年東日本台風災害のため、スパイラルも甚大な被害を受け、整備作業を行いました。第二の市民の森選定作業は進みませんでしたが、他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きます。

④ 太陽エネルギー普及促進プロジェクト

令和元年度はリーダーを交代して活動を再開しました。具体的な活動は、来年度以降に開始する予定です。

⑤ 聖山自然復元プロジェクト

リーダーの体調不良等諸事情により計画していた現場での活動ができませんでした。

⑥ 子どもの環境学習支援プロジェクト

中高生、大学生を対象とした環境学習の支援として「国際ユース環境会議」（開催場所：長野市青少年錬成センター）を開催し、13名のユースの参加を得て、「近未来へのエネルギー」をテーマに環境ワークショップや英語でのディスカッション等を行いました。日本語だけでなく、英語によりコミュニケーションを図ることで、ユースの視野の拡大を図りました。

NPO法人みどりの市民等いくつかの環境団体や事業者との連携および協力関係を構築することができました。

⑦ ながのカーボンオフセットプロジェクト

事業者・団体・市民が手軽に参加できるカーボンオフセットクレジット（CO2排出権）の制度設計

を予定していたが、具体的な活動の展開には至りませんでした。

⑧ 小生物の育成環境保全プロジェクト

小学校の観察会は、例年通り地元小学校児童生徒や市民を対象とした自然観察会を開催したほか、オオムラサキ繁殖地の整備（下草刈り・間伐・外来植物ニワウルシの除伐・飼育舎の設置等）を実施したことにより、越冬幼虫調査の結果、多くの幼虫を確認することができました。

⑨ ぽんすけ育成プロジェクト

ぽんすけ（シナイモツゴ）達が住むすばらしい里山の保全・再生を目指して、チーム自ら稲作と林檎の栽培を開始し「ぽんすけブランド」として販売しました。また、他団体等の協働によるため池の保全活動等を行うなどぽんすけを含む里山の保全活動が展開できました。

⑩ ゴマシジミ保護・育成プロジェクト

ゴマシジミの生息数が少ないため、現状維持に傾注しました。具体的には、生息地内の草刈・間伐の捕獲禁止の立て看板の作成・設置、生息地内のパトロール・注意喚起、ワレモコウの育苗・植栽・保護などを実施しました。

⑪ 生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）プロジェクト

令和元年度はリーダーを交代して活動を再開しました。具体的な活動は、来年度以降に開始する予定です。

⑫ 田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト

「田中桜公園」の手入れの作業を行いました。また、福寿草を植えることにより、多くの人に親しんでいただける公園になるよう活動を行いました。

⑬ 第9回ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト（中止）

ながの環境団体大集合の開催に向け、スペシャルプロジェクトを立ち上げ、全体構成やコンテストの方法等について各種団体等との協働により企画しましたが、令和元年東日本台風災害の影響によりながの環境団体大集合は中止になりました。なお、チーム員として学生3名が企画段階から参画しました。

（任期：7月19日（金）から9月5日（木）まで、会議開催数：3回）

【リーダー】 赤羽和春（ながの環境パートナーシップ会議）

【メンバー】 小林（特定非営利活動法人長野県 NPO センター）、渡辺（ながの環境パートナーシップ会議）、堀池（長野市地球温暖化防止活動推進センター・ながの環境パートナーシップ会議）、河西（ながの環境パートナーシップ会議）、佐藤（信州大学工学部）、加藤（信州大学工学部）、柳川（信州大学工学部）、北村（長野高校）、菊池（事務局）、吉原（事務局）

(2) プロジェクトサポーター制度について

現在5つの各プロジェクトとサポーター事業者が次のとおり協働による事業を展開しました。

※プロジェクトサポーター制度とは…

事業者の参画をより一層促していくため、プロジェクト活動に協働・支援・共感等いただける事業者が、直接、プロジェクト活動に、人的・活動資金・活動場所などを支援いただき、協働体制による継続的な環境活動の展開を図ることを目的に平成28年度に当制度を創設しました。

※協働事業の状況は次のとおりです。

【協働事業の状況】

プロジェクト名	サポーター事業者名	主な協働事業内容
生ごみ削減・再生利用	長野市委託浄掃事業協同組合	収穫祭へ組合員が参加
子どもの環境学習支援	直富商事株式会社	国際ユース環境会議へ社員を講師として派遣
小生物の育成環境保全	コマキ工業株式会社	桜の育苗事業に人的等の支援
ぼんすけ育成	信陽食品株式会社	自然観察会へ食品提供
生態系豊かな、水に親しめる川づくり（水環境保全）	株式会社公害技術センター	水質調査事業の人的等の支援

(3) 信州大学工学部「地域環境演習Ⅰ 2019」の受け入れ

信州大学工学部の「自分でPDCAサイクルを機能させて行動できる人材」の養成を目指し実施する「地域環境演習Ⅰ 2019」の受講生を、各プロジェクトチームで受け入れ、協働による環境活動を行いました。

また、9月21日には、信州大学工学部で、参加学生による活動成果発表会が行われました。

【信大生の受入人数】 4人（前年度4人）

【受入プロジェクト】 生ごみ削減・再生利用 1人、市民の森づくり 2人、小生物の育成環境保全 1人

2 ながの環境パートナーシップ会議全体での活動

(1) 第9回ながの環境団体大集合（中止）

令和元年度は「SDGsから見た地域の活動」をテーマに、持続可能な開発の3要素である社会・経済・環境のうち広く全てに関係する「環境」に着目し、地域で活動している団体や事業者などが現在の活動とSDGsのつながり（関係）について考えてもらえる場を設ける計画をしていました。

しかし、令和元年東日本台風災害の影響により中止となりました。

3 広報

(1) ホームページの運用

- ・各プロジェクトの出前講座やイベント等の予定及び活動報告などを掲載
- ・他団体などから情報提供されたイベント等を掲載

(2) 平成30年度活動成果報告書「手をむすんで」を発行

ニュースレター「手をむすんで」に代わる本会の活動を情報発信していくため、新たに平成30年度のながの環境パートナーシップ会議活動成果報告書「手をむすんで」を発行し、会員や関係機関にPRしたほか、新規会員の勧誘時に活用いたしました。

【規格】 (詳細版) 表紙4P 本文32P 中綴じ仕上げ
(配布版) A3二つ折り

【内容】

- ・ながの環境パートナーシップ会議の案内
- ・平成30年度運営方針
- ・ながの環境パートナーシップ会議活動成果報告
- ・プロジェクトの活動成果報告
- ・信州大学工学部地域環境演習の報告

・新聞記事

【支援団体】 発行に際し、長野市地球温暖化防止活動推進センターの支援をいただきました。

(3) イベント等への参加

① 信州環境フェア 2019

【日時】 令和元年 7 月 27 日（土） 午前 10 時～午後 4 時

令和元年 7 月 28 日（日） 午前 10 時～午後 4 時

【会場】 長野市 ビッグハット

1 日目（ブース来場者・ステージ来場者） 550 名・2 日目（ブース来場者） 60 名

※環境博来場者数：1 日目 3,172 名・2 日目 3,025 名

【内容】 ながの環境パートナーシップ会議の活動紹介（パネル展示、パンフレット配布など）
プロジェクト活動紹介、環境クイズ等（生ゴミ削減・再生利用）

② ながの環境フェア 2019

【日時】 令和元年 9 月 29 日（日） 午前 10 時～午後 2 時 30 分

【会場】 長野市 リサイクルプラザ

ながの環境パートナーシップ会議ブース来場者：100 人

【内容】 本会の全体的な紹介及び各プロジェクトチームの紹介
環境クイズ（麦ストロー）及び新規会員の勧誘等

(4) 電子メール及び facebook の活用

電子メールにて本会会員、関係機関及び長野市役所職員宛へ各プロジェクトチーム等が開催するイベントの情報発信をしています。また、facebook のページを作成し、会員以外の方にも情報発信を行っております。

4 他団体との連携

(1) 「ライトダウンキャンペーン 2019 in ながの」に参加協力

本会は、ライトダウンながの実行委員会の構成団体として、温暖化防止・CO₂削減の啓発活動に協力しました。

【キャンペーン期間】 夏： 6 月 22 日（土）～7 月 7 日（日） 午後 8 時から 10 時

冬： 12 月 8 日（日）～12 月 22 日（日） 午後 8 時から 10 時

(2) 事業所・環境保全団体との活動の連携

【生ゴミ削減・再生利用プロジェクト】

長野市委託浄掃事業協同組合と協働で、収穫祭を開催しました。

【レジ袋使用削減プロジェクト】

スーパーの協力を得て、レジ袋削減を考える会など多くの環境保全団体とともに店頭キャンペーンを行いました。

【市民の森づくりプロジェクト】

浅川地区の「あさかわの里山と森を守る会」との合同作業など地元の方々とのつながりを進める活動を実施し、協力体制の確立を図りました。

【子どもの環境学習支援プロジェクト】

「国際ユース環境会議」を、実行委員会、参加スタッフ、支援組織との協力により継続して開催しました。

【小生物の育成環境保全プロジェクト】

オオムラサキ繁殖地での活動を、住民自治協議会及び他の保全団体を含めて組織された連絡会で情報共有しながら、計画的な保全と環境学習会等を実施しました。

【ぼんすけ育成プロジェクト】

絶滅危惧種のシナイモツゴ（ぼんすけ）を保護していくため、県と連携を図りながら活動を実施しました。また、NPO法人生態工房（東京）との協働によりシナイモツゴの生息地であるため池の保全活動等を行いました。

【ゴマシジミ保護・育成プロジェクト】

長野市霊園に生息する絶滅危惧種「ゴマシジミ」の保護・育成活動を県、市及び研究機関との連携、協力により実施しました。

(3) 身近な水環境全国一斉調査 2019 に参加

河川をはじめとする身近な水環境に対する市民の意識の高まりを受け、全国各地で数多くの市民団体等により水質調査が行われています。このような調査を全国統一の手法で同日に実施し、水環境に関する市民の理解と関心を深めることを目的に、平成16年から毎年、世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に全国一斉調査を実施しています。

そこで、本会では、この趣旨に賛同するとともに本会の活動の拡大と活性化を図るため、同調査活動に参加しました。

【開催日時】 令和元年6月1日（土） 午前8時～正午

【調査場所】 長野市内の千曲川、犀川への流入河川等約50か所

【参加者数】 10人（うちP会議4人）

(4) 「ごみひろいとアレチウリ駆除作業」に参加協力

長野市が主催する「ごみひろいとアレチウリ駆除作業」に参加協力しました。

【開催日時】 令和元年7月6日（土） 午前9時～10時

【場 所】 犀川第2緑地（日赤南側グラウンド）、更北運動場

【参加者数】 80人（うちP会議17人）

(5) 特定外来生物「アレチウリ」の駆除活動に参加協力

豊かな環境づくり長野地域会議が主催するアレチウリの駆除活動に参加協力しました。なお、本会は、同会議の会員です。

【開催日時】 令和元年7月26日（金） 午前8時30分～午前10時

【場 所】 長野市若穂牛島落合橋運動場周辺

【参加者数】 70人（うちP会議5人）

(6) 山の日ウォーキングに共催

山の日が制定されたことを記念し、毎年、山に親しむとともに自然の大切さや地域の歴史を理解するため開催しています。本会は、共催者として運営に携わりました（主催：長野市）。

【開催日時】 令和元年8月24日（土） 午前9時45分～午後1時

【場 所】 長野市茶臼山

【参加者数】 40人

(7) 長野市環境子どもサミットに参加協力

子ども達が環境問題を理解し、地球環境について深く考え、今後の活動を契機となる場を提供するため、毎年環境子どもサミットが開催されています。本会は、主催者である同サミット実行委員会の構成メンバーとして、運営の一翼を担いました。

【開催日時】 令和元年10月27日（日） 午前10時～午後2時

【場 所】 長野市リサイクルプラザ

【参加者数】 600人

(8) 「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる条例」の施行に伴う周知・啓発活動

同条例に賛同するとともに本会の活動をアピールするため、周知啓発活動に参加しました。

【開催日時】 令和元年7月12日（金） 午前7時40分～午前8時30分

【場 所】 長野駅前広場及び東口デッキ周辺

【参加者数】 50人（うちP会議10人）

(9) 他の環境団体等への周知

平成30年度活動成果報告書「手をむすんで」やパンフレットを個人や事業所などに配付をしました。また、各新聞に記事として取り上げられるなど環境活動をPRしました。

5 会議

(1) 通常総会

日 時：令和元年6月16日（日） 午前10時～正午

会 場：長野市リサイクルプラザ 2階 大会議室

出席数：出席者数110名（出席者29名＋委任状81名 会員数179名）

内 容：平成30（2018）年度活動報告、収支決算報告、監査報告について

令和元（2019）年度運営方針（案）、活動目標・活動計画（案）、収支予算（案）について
会費規程の一部改定について

(2) 理事会

ながの環境パートナーシップ会議の運営等について協議するため、理事会を10回開催しました。

第5・10回の理事会では、プロジェクトリーダーとの合同会議を開催し、各チームリーダーから進捗状況等について説明を受け、プロジェクト活動について助言を行いました。

また、第3・4回の理事会について、電子メールを用いたみなし決議としたことで、業務の効率化を行いました

回 数	開 催 日 時	理事等	備 考
第1回	6 月 6 日 （木） 18:00～	8人	
第2回	7 月 11 日 （木） 18:00～	7人	
第3回	8 月 8 日 （木）	9人	みなし決議
第4回	9 月 30 日 （月）	9人	みなし決議
第5回	11 月 1 日 （金） 18:00～	9人	合同会議

第6回	12月12日(木)	18:00～	6人	
第7回	1月27日(木)	18:00～	6人	
第8回	2月27日(水)	18:00～	6人	
第9回	3月19日(木)	18:00～	9人	合同会議
第10回	4月9日(木)	18:00～	6人	

(3) 各プロジェクトチームのミーティングの開催

各チームで随時開催しました。

6 市政等への参画

審議会等名称	会 員 名
長野市総合計画審議会委員 長野市地球温暖化防止活動推進センター運営委員 長野広域連合ごみ処理手数料審議会委員 豊かな環境づくり長野地域会議運営委員	金井 三平
長野市環境審議会委員	赤羽 和春
長野市健康増進・食育推進審議会委員	佐藤 敏夫
長野市廃棄物減量等推進審議会委員	西澤 和雄
長野県緑の基金理事	片桐 勝治
長野市環境こどもサミット実行委員会委員	小山 勝宏

7 その他

(1) 寄附

令和2年1月28日、長野卸売市場協同組合様から本会へ寄附金の贈呈がありました。

【内容】長野卸売市場内の約80の事業所で作る同組合は、市場内で出た古紙を原料にトイレットペーパーを製造し、各事業所に販売しています。このたび、同組合からこのトイレットペーパーの売上金の一部を市内の環境保全活動に役立ててほしいと本会に寄附していただきました。

【寄附金額】66,000円

(2) 会員

令和2年5月末現在の会員数：182（令和元年5月末：179）

(3) ながの環境パートナーシップ会議への年間活動参画者数

平成18年度	1,676人	平成25年度	3,638人
平成19年度	2,495人	平成26年度	3,566人
平成20年度	3,152人	平成27年度	3,766人
平成21年度	2,448人	平成28年度	4,112人
平成22年度	2,790人	平成29年度	4,629人
平成23年度	4,116人	平成30年度	4,842人
平成24年度	4,176人	令和元年度	4,588人

令和元(2019)年度活動報告書			1 環境パートナーシップ会議	2 環境パートナーシップ会議	7 環境パートナーシップ会議
ながの環境パートナーシップ会議 [総括表]					
ビジョン	山にみどり・川に清流・谷に風・空の星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの				
基本方針	環境問題に関わる人や団体を結び(つなぐ)、情報を共有する(伝える)し、共に活動(行動する)する役割を担うことにより、環境保全に向けたネットワークを築き、地球環境問題へと視野を広げながら、地域から地球規模に広がる環境保全活動を推進し、環境ビジョンの実現を目指していく。				
活動方針	①アジェンダの推進 ②協働の拡大と連携強化 ③広報ツールとして活動成果報告書「手をむすんで」を刊行 ④民間団体助成金の活用を推進				
実施プロジェクト等	①	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	※会員数:19		
	②	レジ袋使用削減プロジェクト	会員数: 5		
	③	市民の森づくりプロジェクト	会員数:26		
	④	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	会員数:11		
	⑤	聖山自然復元プロジェクト	会員数: 5		
	⑥	子どもの環境学習支援プロジェクト	会員数: 5		
	⑦	ながのカーボンオフセットプロジェクト	会員数: 2		
	⑧	小生物の育成環境保全プロジェクト	会員数:42		
	⑨	ほんすけ育成プロジェクト	会員数: 9		
	⑩	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	会員数: 1		
	⑪	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	会員数:10		
	⑫	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	会員数:10		
	⑬	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト(7~9月:3回開催)⇒中止	メンバー数:11		
	※事業者・団体の会員数は1と数える。また、複数のプロジェクトに所属している者は両方で数えるので、全体の会員数とは一致しない。				
活動実績	実施期間	内 容	人数		
	R1.6~R2.5	生ごみ削減・再生利用プロジェクト	947		
	R1.6~R2.5	レジ袋使用削減プロジェクト	41		
	R1.6~R2.5	市民の森づくりプロジェクト	487		
	R1.6~R2.5	太陽エネルギー普及促進プロジェクト	40		
	R1.6~R2.5	聖山自然復元プロジェクト	0		
	R1.6~R2.5	子どもの環境学習支援プロジェクト	125		
	R1.6~R2.5	ながのカーボンオフセットプロジェクト	0		
	R1.6~R2.5	小生物の育成環境保全プロジェクト	543		
	R1.6~R2.5	ほんすけ育成プロジェクト	466		
	R1.6~R2.5	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	127		
	R1.6~R2.5	生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト	6		
	R1.6~R2.5	田中さくら公園作り&里山づくりプロジェクト	203		
	R1.7~R1.9	ながの環境団体大集合スペシャルプロジェクト(7~9月:3回開催)⇒中止	26		
	R1.6.1	身近な水環境全国一斉調査2019	4		
	R1.6.16	平成30年度通常総会	110		
	R1.6~R2.4	理事会(第1回~10回)	75		
	R1.7.6	長野市主催によるごみひろいとアレチウリ駆除作業	17		
	R1.7.12	「ボイ捨て、歩行喫煙等防止条例」の一斉啓発活動	10		
	R1.7.26	豊かな環境づくり長野地域会議主催によるアレチウリ駆除活動	5		
	R1.7.27-28	信州環境フェア2019	610		
	R1.8.24	山の日ウォーキング	40		
	R1.9.29	ながの環境フェア2019	100		
	R1.10.27	第24回長野市環境こどもサミット	600		
	R1.6~R2.4	地域まるごとキャンパス実行委員会(5回)	5		
	R1.6~R2.3	信州大学工学部 地域環境演習Ⅰ(学生数はプロジェクト報告に含む)	1		
	一年間の活動・参加者数			4,588	
成果・課題	《活動の成果》 ・12プロジェクトを推進。 ・活動成果報告書「手をつないで」を発行し関係団体へのPRや新規会員の勧誘時等で活用した。 ・ホームページにバナー広告を掲載。また、facebookを利用した情報発信を行った。 《今後の課題》 ・環境保全活動の協働の推進(プロジェクトサポーター制度の推進等) ・会員の高齢化による活動力の低下が懸念されるため、市民・事業者・行政の協働による取組を更に推進するとともに若者や事業者を含む新規会員の勧誘を促進する。 ・第9回ながの環境団体大集合が令和元年東日本台風の影響で中止となった。また、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、新しい生活様式が求められていることに対応する必要がある。		・令和2(2020)年5月末現在の会員数:182 うち個人:151、事業者・団体:31 (令和元(2019)年5月末現在の会員数:179) ・ながの環境パートナーシップ会議の活動への参画者 平成20年度: 3,152人 平成21年度: 2,448人 平成22年度: 2,790人 平成23年度: 4,116人 平成24年度: 4,176人 平成25年度: 3,638人 平成26年度: 3,566人 平成27年度: 3,766人 平成28年度: 4,112人 平成29年度: 4,629人 平成30年度: 4,842人 令和元年度: 4,588人		

令和元(2019)年度活動報告書											
プロジェクト名		生ごみ削減・再生利用プロジェクト				2		12		17	
理想のまち	・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち ・生ごみの大半がリサイクルされ再生利用システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち										
	数値目標	・可燃ごみに占める生ごみの割合を35%にする。(これまでの約40%から現在は約36%になった) ・市が推奨する自家処理(水切り・堆肥化)を地域ごとに取り組む方法として、現在、2つの住民自治協議会との協働を維持できた。 ・キッズ生ごみ農園クラブの年間家族会員10家族の目標を上回り20家族が会員となったが、台風19号の影響により農業機器の破損が多く圃場の整備に時間がかかる。また、新型コロナウイルス対策も伴い会員継続確保が危ぶまれている。自立は大変厳しい。									
行動計画	①生ごみ削減・再生利用の啓蒙・啓発キャンペーン活動を各種展示や講習会等によって働きかける。 ②生ごみの自家処理を住民自治協議会に働きかけるとともに市生活環境課とみどりの市民の協力を得て進める。 ③「キッズ生ごみ農園クラブ」の活動をさらに充実させる。この計画は、昨年10月の台風19号被害により、農機具の破損と圃場の破壊により一時は壊滅状況であった。まずは、流された器具を拾い集め、最低限の農機具修理を協力者の善意で行い、圃場の整備も4ヶ月ほどで何とか運営できる状態に復活できた。										
活動計画	①信州環境フェア・アモーレフェスタにて展示・クイズ・生ごみで育てた野菜の即売会等を実施した。また、篠ノ井軽トラ市で野菜を販売し生ごみ減量を呼び掛けた。 ②安茂里自治協にて「生ごみ実践減量講座」、若槻自治協にて「生ごみ実践減量講座及びエコ料理教室」を実施した。 ③キッズ生ごみ農園クラブの会員は20家族に増えたが、台風19号の被災により大半の農機具を失った。圃場の野菜は、大半が流失し、大根のみで秋の収穫祭を何とか実施したものの参加者は5家族のみでした。 ・台風19号で浸水した農機具は、散水ポンプセット・耕運機・草刈り機・脱穀機などが修理不能で廃棄した。辛うじてトラクター1台と耕運機・草刈り機各1台を修理できた。 ・ミズコンポスト・散水用タンク・ベンチ等軽いものは殆ど流され、流されたものを一部回収し、ミズコンポストを修繕した。 ・農地の復活作業は、被災直後から始め、別の場所探して5カ所ほど視察したが、条件が合わなく断念した。次年度もこの河川敷でやるが、地代を1/3に引き下げ交渉をし、復活することにした。浸水対策としては、一時非難場所の確保を検討中。										
	主な活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数		
主	6	2	キッズ農場、会員のレタス・絹サヤ収穫	10	22	22	キッズ農場、農地探しの緊急懇談	4			
		22	もんぜんぶら座、タウンミーティング参加	4	25	25	農地探し、本堂さん・蟻川さん紹介大豆島・松代・小島田・松岡	5			
な		23	キッズ農場、会員の玉ねぎ・大根収穫農作業	18	28	28	水害後片付け	2			
		24	キッズ農場、生ごみ堆肥追肥・カボチャ苗植付	3	29	29	キッズ農場、不燃・可燃ごみ軽トラ6台アクアバルへ	3			
活		29	キッズ農場、子ども食堂・介護施設に大根寄贈	22	30	30	水害物の洗い物、被災報告書提出	3			
	7	6	アレチウリ退治キャンペーン(千曲川河川敷)	4	31	31	農器具洗い、カシオよりテーブル・椅子・パレット他寄贈	4			
動		12	歩きたびご禁止キャンペーン	2	11	1	被災可燃ごみ運び、大根掘り、カボチャ洗い	3			
		15	キッズ農場、ライ麦刈り・草取り他	16	2	2	大根・落花生・菊芋の収穫	16			
実		18	ライ麦刈り・ハゼかけ・草取り他	5	3	3	アモーレフェスタに出店	7			
		21	ライ麦刈り・ハゼかけ	8	5	5	耕運機・一条刈り機を修理のため運搬	2			
績		26	収穫祭準備・環境フェア搬入	7	18	18	11/7.15耕運機・発電機・一条刈り機修理完了	7			
		27	環境フェア	556	22	22	秋の収穫祭と軽トラ市の準備	4			
主		28	キッズ農場、収穫祭	44	23	23	秋の収穫祭・豚汁を味わう会	19			
	8	4	第2回ジャガイモ収穫	8	12	4	苦土石灰散布・耕運作業	4			
な		11	8/1～11黒小豆の支柱建てと誘引作業	12	21	21	被災農具等後片付け	8			
		14	8/14～10/11黒小豆の収穫菜500さや	24	1	10	馬糞堆肥をウマグロブより提供、生ごみ堆肥に混入	2			
活		18	落花生草取り他農作業	4	16	16	ライ麦粉を製粉受け取り	2			
		21	アルプス福祉会麦ストロー製作の視察	4	25	25	耕運作業、麦踏み、中島菜・小松菜収穫	9			
動		24	山の日イベント参加、野菜と漬物提供	2	2	3	生ごみ棟分受け入れ中止の看板製作設置	4			
		25	しののけ軽トラ市で野菜販売	3	21	21	生ごみ堆肥場の板囲い作製	4			
実		30	草刈り・耕運作業	3	29	29	農場開き、麦踏み、堆肥切り返し	3			
	9	1	秋野菜の種まき(大根・小松菜・春菊・中島菜など)	11	3	13	耕運作業・苗床作り(夏野菜)	3			
績		4	トラクターの修理	3	20	20	種ジャガイモ(キアガリ)マルチ植え付け	3			
		15	トラクターのバッテリー交換・耕運作業・草刈り	4	4	4	耕運作業、種ジャガイモ(タンジャク10kg)植え付け	3			
主		17	ストローの試作品作り・ライ麦パン作り	9	11	11	マルチ補修、草取り	2			
		28	枝豆・カボチャ・ナスなど収穫	9	25	25	寄贈の種ジャガイモ(タンジャク5kg)植え付け	2			
な	10	4	枝豆・小松菜・黒小豆収穫	6	5	6	夏野菜の苗を植え付け	5			
		12	キッズ農場、台風19号浸水被害		8	8	トラクターで耕作作業	2			
活		15	キッズ農場、水害後片付け	5	10	10	カブトムシ捕獲シート張り・苗に水やり	4			
		18	キッズ農場、小山さん紹介代替地・松代視察	2							
一年間の活動・参加者数											
成果	≪活動の成果・課題≫ ・成果としては二つあります。一つ目は、キッズ生ごみ農園クラブの家族会員登録数が20家族になったことです。そのうちの5家族が子育て世代であり、次世代への生ごみ堆肥の活用と食農体験が期待できるところであった。しかし、10月の台風19号の浸水被害により、農場が泥を被り育成中の作物(黒豆・大豆・大根など)が不作であり、農業機器の損失も大きかった。(別紙「台風19号被災報告」)そのため、秋の収穫祭参加者は少なく、更に年明けの新型コロナウイルス防止対策による自粛が重なり、活動の機会も少なくなり呼びかけても来る人は僅かだった。課題というより災害に阻まれたということでしょう。 二つ目は、前年に試験栽培したライ麦を収穫し、麦ストローの試作品が出来たことです。だが、ストローの製品としては課題が多い。 ①ライ麦穂は細いものが多くストローとしてはイマイチだ。②節の長さがまちまちで切る時に割れやすい。③漂白の効果が期待したほどでない。(刈る時期と乾燥方法を工夫すべき)④脱ブラの展示キャンペーンとしては使えるが実用にはハードルが高い。 ・ライ麦粉として精麦製粉を業者に依頼し、出来たライ麦粉は会員に配り、パンを焼いたり、うす焼きに味わってもらった。 ・そこで、2020年度の試験栽培は、穂が太くて丈夫そうな春麦(麦茶用)とホワイトファイバー(もち麦用)を選び、麦としての評価も期待できそうだと、成長を楽しみに知っているとこです。 ・大きな課題としては、生ごみの投入量が増えて、ビニールやビン・缶など異物の混入が多くなり、漬物や魚など丸ごと捨てて来たとみられるものが多くなったことです。会員以外の搬入も窺えることから、「忠告看板」を設置したら大分異物混入は少なくなった。今後は、交通整理の方法を徹底して実施する必要があります。										
課題	長野市協力課等										
	生活環境課										
	取組内容										
	定例会にて協議フォロー、信州環境フェア・キッズ農園のイベント補助など										

令和元(2019)年度活動報告書								12 2019年度環境活動報告書	17 2019年度環境活動報告書
プロジェクト名			レジ袋使用削減【リーダー:渡辺 ヒデ子】						
理想の街	レジ袋の使用を減らし、買い物袋(マイバッグ)を持参する意識を定着させることにより、ごみ減量に対して市民が主体的に行動し、資源を大切にしているまち。								
数値目標	マイバッグ持参率を80%以上とする。								
行動計画	①多くの団体、特に学校等(若い世代対象)と連携を取りながら、無料配布中止に向けて取り組む。 ●県・地域振興局と連携 ②レジ袋使用削減の意識啓発を進める。 ●店頭啓発の継続(啓発用グッズの確認作成) ●イベントでの意識啓発 ●持参率調査 ●市民団体への協力 ③環境学習の推進 ●学校等での環境学習啓発用パンフレットの配布 ④来年度以降のプロジェクトチームの活動について、検討を行っていく。								
活動計画	前年度の活動等から見えてきた課題を整理し、従来からの事業や新規事業に生かしていく。 ●毎月5日のキャンペーン(10月強化キャンペーン) ●持参率調査 ●県・地域振興局との連携 ●啓発パンフレットを作成し、新たな啓発のツールとして幅広い利用を模索 ●プロジェクトチームの活動内容を検討する。								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数	
	8	21	PTミーティング	4	7	27.28	信州環境フェア出展	10	
	1	16	PTミーティング	4	3	12.13	マイバッグ持参率調査	20	
	3	5	PTミーティング	3					
一年間の活動・参加者数								41	
成果・課題	≪活動の成果・課題≫ ・マイバッグ持参率は、65.4%と昨年度67.5%を下回ってしまったが、4年連続で60%超えとなった。 ・ながの環境エネルギーセンターの見学時、長野市内の小学4年生に対して啓発用パンフレットの配布を行った。 ・信州環境フェアにマイバック持参率調査の結果等をまとめたパネルを出展し、レジ袋利用削減の啓発活動を来場者に向けて行った。 ・東日本大風災害や新型コロナウイルス感染症により、予定していた啓発活動(10月ノーレジ袋デー・啓発キャンペーン、12月環境団体大集合、2月海ゴミ対策地域リーダー養成講座)が実施できなかった。 ・マイバック持参率が65%を超え、レジ袋の有料化に伴い数値目標80%が達成されるものと考えられるため、レジ袋使用削減チームを発展的解消することをチーム内で確認した。								
長野市協力課等			取組内容						
生活環境課			事務局として参加						
環境保全温暖化対策課			事務局として参加						

令和元(2019)年度活動報告書										6 環境教育 推進	15 環境教育 推進	17 環境教育 推進
プロジェクト名			市民の森づくり【リーダー:片桐 勝治】									
理想の街	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち											
数値目標	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、”ゼロ災”とする											
行動計画	・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。											
活動計画	・森林整備(6～12月、4、5月) ・趣味の林業講座(6～9月) ・秋の里山散策(10月) ・高校生の森林整備体験、工作体験、自然観察(6月、8月、10月) ・里山遊び(かんじき体験)(3月) ・きのこの駒打ち体験(4月) ・仮称第二の市民の森候補地の実施計画立案 ・事業者、他団体との協力、連携を図る											
活動実績	月	日	内容			人数	月	日	内容			人数
	6	2	市民の森総会			22	10	12,19	森林整備作業(定例外日含む)			15
		22	自然観察会			23		20	秋の里山散策(中止)			
		23	森林整備作業			6		27	環境こどもサミット参加			47
		30	林業講座			28		30	定例会議			7
	7	14	林業講座			28	11	9,24	森林整備作業(定例外日含む)			21
		21	森林整備作業			2		27	定例会議			6
		24	定例会議			5	12	7	森林整備作業(定例外日含む)			12
	8	3,25	森林整備作業(定例外日含む)			15		13	定例会議			12
		18	林業講座			28	2	20	定例会議			8
		24	山の日ウォーキング			44	3	8	かんじき体験会(中止)			
		28	定例会議			4		26	定例会議			7
	9	1,29	林業講座(TV取材者含む)			58	4	26	きのこの駒打ち(体験会は中止)			4
		11	北部高校森林整備体験			29	5	24	森林整備作業(定例外日含む)			11
		14,22	森林整備作業(定例外日含む)			31		28	定例会議			9
		25	定例会議			5						
一年間の活動・参加者数										487		
成果・課題	《活動の成果》 本年度は趣味の林業講座、高校生の森林整備体験、山の日ウォーキング等での工作体験は出来たものの、里山散策、かんじき体験会、きのこの駒打ち体験会は、台風災害とコロナ禍の影響で中止や一般参加の取止めとなってしまう。しかし、活動参加者は目標の500名程度の参加を得ることが出来た。「スパイラル友の会」が解散となり地元の方々とのつながりが薄くなる所で有ったが、環境保全研究所との協働の方向が見え、他団体との協力連携が図れそうである。 《今後の課題》 活動参加者の固定化傾向のある中、更なる活動の広がりや、活動の多様性を考えると会員数の増加は必要である。他のチームなどとも協力し、体験会なども活用の上、活動の輪を広げて行きたい。 安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。											
長野市協力課等			取組内容									
森林農地整備課			基礎から学ぶ趣味の林業講座									

令和元(2019)年度活動報告書									
プロジェクト名				太陽エネルギー普及促進【リーダー:上條補喜】				 	
理想の街	資源を大切に、再生可能エネルギーである太陽光発電など、再生可能エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力のあるまち								
数値目標	太陽光エネルギーの啓発及び先進地の見学学習 参加目標30名								
行動計画	長野県の中での再生可能エネルギー先進地を見学学習し、今後の長野市の活動に活かす。田中ソーラーシェアリングの進行状況を見ながらソーラーシェアリングの可能性に寄与する。								
活動計画	県が「1村1自然エネルギー取り組み事例」として案内している県内の事例から、今年度特に上小地域の活動からまなぶ。大変多くに事例が挙げられているため、自然エネルギー活用事例の中でチームとして関心のある事例を複数見学する。その際、「青木村のエネ空あおきタワー」にも立ち寄る。								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数	
	8	24	山の日イベント	40					
一年間の活動・参加者数								40	
成果・課題	≪活動の成果・課題≫ 長野市主催の山の日イベントで、ソーラークッカーを展示し、小中学生を対象に、太陽光エネルギーを体験してもらった。太陽光からエネルギーを取り出すことで、様々なことができるということを実感してもらった。 先進地の視察については、台風19号災害や新型コロナウイルス感染拡大への対応のため、実施できなかった。								
長野市協力課等				取組内容					
学校教育課				山の日イベント					
環境保全温暖化対策課				山の日イベント					

令和元(2019)年度活動報告書								 	
プロジェクト名			子どもの環境学習支援【リーダー: 渡辺隆一】						
理想の街	こどもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち								
数値目標	第8回国際ユース環境会議の参加者16名(ユース8名)								
行画動計	第8回国際ユース環境会議を開催し、ユースと環境団体との連携を図る								
活動計画	第8回国際ユース環境会議開催のための活動 ・開催要項の作成、後援依頼、 ・現地下見、 ・チラシ作成、配布 ・報告書作成、送付など								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数	
	6	28	例会	4	5	28	zoom打ち合わせ		4
	7	11	例会	5	6	8	zoom打ち合わせ		5
		31	例会・印刷	5		19	zoom打ち合わせ		7
	8	2	チラシ発送	5		21	zoom打ち合わせ		8
		21	下見	3		27	プレ会議		12
		27	例会	4					
	9	7	1日目	20					
		8	2日目	20					
	10	30	反省会	5					
	12	29	例会	5					
	1	8	メール	2					
	2	9	打ち合わせ	3					
	3	27	メール	2					
	4	22	メール	2					
	5	18	zoom打ち合わせ	4					
	一年間の活動・参加者数								125
成果	《 ア 2019年9月に2泊3日の日程で、国際ユース環境会議を長野市錬成センターにて開催した。8名のユースの参加を得、「近未来のエネルギー」をテーマに考え、英語で発表し、討論した。中国、ブラジル、カナダの3か国の外国籍ユース等と英語によりコミュニケーションを図ることで、ユースの視野の拡大を図れた。 イ 参加者間のLINEやfacebook及びメーリングリストを用いたコミュニケーションを構築し、次回の国際ユース環境会議の企画への参画の端緒を築くことができた。								
課題	ウ 実施成果を発表し、広報できた。 2 課題: 国際ユース環境会議(年次イベント)の開催、メーリングリスト等枠組みは設定できたが、ユースの自主的な活動はまだ十分ではない。支援メンバー不足など長期的な支援の仕組みを確保したい。”								

令和元(2019)年度活動報告書								
プロジェクト名				小生物の育成環境保全【リーダー:杉山茂樹】				
								
理想の街	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキ含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。							
数値目標	松代町内の小学校の総合学習・コミュニティスクールの中で学習会・観察会を随時開催する。また、市民対象の観察会を実施し、環境保全の啓発活動を行なう。昨年同様に年間述べ参加人員500名を目標に進める。エドヒガンを松代全区公共施設を初めとし各学校の枯死寸前のソメイヨシノにかえ植栽して行く。							
行動計画	オオムラサキ観察会を身近で随時できるよう飼育舎を設置し子供たちに本物を見せる環境作りをする。より多くの子どもたちにオオムラサキの観察をしてもらうために、松代町内の小学校に観察会への参加を呼び掛ける。オオムラサキだけでなくジャコウアゲハ・キアゲハ・アゲハチョウ・アサギマダラの食草をさらに補植し安定的な発生を試みる。松代千本桜大作戦で行なっているエドヒガン苗の頒布を今年も実施する。							
活動計画	オオムラサキ繁殖地内に設置した飼育舎中心に安定的な発生を試みて、自然観察会の内容充実を図る。 「自然観察ハンドブック」を制作し、自然観察会の参加者に配布する。 子供たちが安心・安全に入れるような環境整備を推し進める。							
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	5	29	東条小学校観察会打合せ	2	11	28	寺尾小学校 めぐみの会出席	3
	6	5	オオムラサキ生育調査	5	12	3	オオムラサキ幼虫飼育準備	3
	6	12	オオムラサキ生育調査	5	12	7	オオムラサキ幼虫調査	13
	6	13	オオムラサキ観察会打合せ	12	1	20	竹ノ入整備打合せ	8
	6	27	東条小学校観察会	72	2	1	越冬幼虫保護作業	9
	7	1	まきば保育園観察会	70	2	18	自然観察ハンドブック打合せ	6
	7	2	豊栄・寺尾小学校観察会	42	2	29	アンズ・エドヒガン剪定作業	14
	7	3	松代/清野小学校観察会	71	3	15	竹ノ入支障木伐採作業	2
	7	7	市民対象のオオムラサキ・メダカ観察会	100	3	24	エドヒガン移植作業	3
	7	9	東条・寺尾小学校観察会	48	3	30	竹ノ入支障木等チッパ作業	2
	9	1	P会議総会	24	3	31	竹ノ入支障木等チッパ作業	5
	9	15	オオムラサキ幼虫調査/草刈り	8				
	9	21	信州大 地域環境演習発表参加	3				
	9	29	竹ノ入草刈り	10				
	11	20	オオムラサキ飼育舎整備	3				
一年間の活動・参加者数							543	
成果・課題	《活動の成果・課題》 オオムラサキ観察会で観察するオオムラサキを確保するため、昨年度に引き続き幼虫の飼育を行いました。幼虫50頭程度飼育し、30頭の成虫が羽化しました。小学校の観察会は松代町内全ての小学校6校が来園し、蛹や成虫を観察してもらうことができました。観察会の最中にオオムラサキが羽化する瞬間を見る事ができた小学校もあり、子供たちは大喜びでした。 本年度は新たに竹ノ入の自然観察ハンドブックを制作しましたので、来年度の観察会に役立てたいと思います。							
長野市協力課等			取組内容					
松代支所			自然観察ハンドブックの制作 (支所発地域力向上支援金事業)					

プロジェクト名		生態系豊かな、水に親しめる川づくり 【リーダー:酒井 今朝重】				6 身近な水辺環境調査一斉調査 17 身近な水辺環境調査一斉調査		
理想の街	市街地を流れる川には清らかな水が流れ、多くの生き物が生息し、周辺を散策する人々が心地よい水辺を備えた町							
数値目標	①休会が続いていたチームの活動を復活させる。 ②他の団体の活動に参加し、来年度以降のチーム独自の活動を検討する。							
行動計画	①長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力。 ②「身近な水辺環境調査全国一斉調査」への協力。 ③公開学習会2020及び第9回ながの環境団体大集合への参加							
活動計画								
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	6	1	全国身近な水辺環境調査一斉調査	2				
	6	3	アレチウリの駆除活動	1				
	7		水生生物調査「夏の川遊び1」	1				
	8		水生生物調査「夏の川遊び2」	1				
	8	24	茶臼山の自然を楽しもう	1				
一年間の活動・参加者数							6	
成果・課題	プロジェクトチームの活動復活及び新規事業開発を検討したが新年度への継続となった。							

令和元(2019)年度活動報告書								
プロジェクト名				ぼんすけ育成【リーダー:小林 和子】				
				15 秋の里山を大切にしよう 17 ぼんすけ育成				
理想の街	里山に生息する絶滅危惧種の多くは、市街地の開発された平野部に生息していた身近な生き物であった。つまり、開発によって生息場所を追われ、里山に卡ろうじて生き残っているといえる。過疎の進行した里山で絶滅危惧種の保全の問題を解決することは難しい。ぼんすけ(シナイモツゴ)をシンボルとして、里山の役割と現状を市街地住民にも知ってもらい、里山と市街地の市民が保全目標を共有できる街にしたい。							
数値目標	1 シナイモツゴの生息場所であるため池の環境保全活動を実施する。 2 地元の児童生徒や市民を対象としたシナイモツゴ観察会を開催し、ため池に生息する生き物を観察する。また、会員のスキル向上を目指すため勉強会(講演会)を開く。 3 ぼんすけのネーミングを活用した信里地域の農産物をブランド化し販売する。 (目標数値:観察会等の参加者数160名 会員数40名)							
行動計画	1 シナイモツゴの生息場所であるため池の環境保全活動を実施する。 2 地元の児童生徒や市民を対象としたシナイモツゴ観察会(秋と春)を開催し、ため池に生息する生き物を観察する。また、会員のスキル向上を目指すため勉強会を開く。 3 プロジェクトチーム自ら稲作とリンゴの栽培を開始する。 4 ぼんすけのネーミングを活用した信里地域の農産物をブランド化し販売する(ぼんすけ米・ぼんすけ林檎)。 5 活動拠点場所であるぼんすけ小屋を設置する。							
活動計画	・生息地の環境保全活動 ・活動拠点箇所を設置する。 ・春、秋の自然観察会を開催 ・所属会員の自己研鑽のため、視察研修及び講演会を開催する。 ・稲作と林檎の栽培を実施することで、ぼんすけの保護＝里山の保全(荒廃農地の再生)を図る。また、収穫されたお米と林檎にぼんすけのネーミングを行い販売する。 ・毎月定例会を開催(毎月第3水曜日13:30～信里合同庁舎、会の運営・企画立案・ため池調査報告・情報交換等)							
活動実績	月	日	内容	人数	月	日	内容	人数
	6	2	ぼんすけ田んぼ田植え	16	12	2	ぼんすけリンゴ収穫	4
	6	29	定例会	9	12	18	定例会	6
	7	14	定例会・草刈り	12	1	22	定例会	5
	7	21	観察会・講演会	30	2	8	シンポジウム「絶滅危惧種と外来魚問題」	5
	8	8	定例会	5	2	19	定例会	5
	8	24	ぼんすけ観察会(山の日イベント)	80	3	18	定例会	8
	9	8	定例会・草刈り	5	4	15	定期総会	14
	9	28	出張展示(柳原市民交流センター)	50	5	21	定例会	10
	10/6～7		ぼんすけ田んぼ稲刈り・草刈り	32	5/30～31		ぼんすけ田んぼ田植え・草刈り	32
	10	19	出張展示(動物園まつり)	50				
	10	26	水辺の自然再生共同シンポジウム	5				
	10	26	生き物フェア	50				
	11	1	ぼんすけ田んぼ脱穀	8				
	11	20	定例会	7				
	11/28～29		ため池かいぼり作業	18				
一年間の活動・参加者数								466
成果・課題	《活動の成果》 近年、少子高齢化や農業離れによって、ため池の荒廃が進み、ぼんすけ達の住処がどんどん減ってきている状況の中、ぼんすけ育成PTでは、自ら稲作と林檎栽培を実施し、「ぼんすけブランド」として販売した。また、他団体等との協働によるため池の保全活動を行うなどぼんすけを含む里山の保全活動が展開できた。 《今後の課題》 来期も同事業を継続し、いい自然を守る～シナイモツゴも人もうれしい～そんな共生と呼ばれるような環境保全を目指していきます。							
長野市協力課等				取組内容				
学校教育課				ぼんすけ観察会(山の日イベント)				
環境保全温暖化対策課				ぼんすけ観察会(山の日イベント)				

令和元(2019)年度活動報告書										15 自然豊かな里山を 活用しよう	17 パトナレッジで 自然を体験しよう	
プロジェクト名			ゴマシジミ保護・育成【浅川地区住民自治協議会】									
理想の街	「ふるさと創生」活動の一環として地区内住民の意識の高揚とボランティア参加の醸成を図り浅川の特徴である中山間地と平野部の融合を徐々に深め、また子ども達からお年寄りまでの交流を図り次世代への財産として繋がればと考えている。まちづくり計画に位置している「ゴマシジミの保護・育成」をどうして里山の整備、自然環境の保全の大切さを学んでいければと継続的な活動を行う。											
数値目標	1) 小・中学生を含め地元愛好家・ボランティア組織の参加を仰ぎ年間延べ200名位を目安に活動を行う。 2) 生息地の植栽(ワレモコウ)を延100名位で行う。 3) 生息地のパトロールを7月25日から8月末まで巡回パトロールを行う。(延80名)											
行動計画	・他動植物との関連 ・シワクシケアリの発見 ・ワレモコウの発芽と植栽 ・各関係機関と協力し共生昆虫の調査を行う											
活動計画	・ワレモコウの栽培(現地採取の種をまき栽培)4月中旬 ・生息地の草刈り間伐(年間4回) ・生息地のパトロール(ローテーションによる)「7月末～9月中旬」											
活動実績	月	日	内容			人数	月	日	内容			人数
	6	11	草刈り			4	9	2	ゴマシジミ生息調査			2
	7	22	ワレモコウ移植(浅川小育苗)			13	9	9	ゴマシジミ生息調査			2
	7	24	外来種刈り取り			2	9	15	ゴマシジミ生息調査			2
	8	1	早朝パトロール			5	10	4	監視カメラ撤去作業			3
	8	4	ゴマシジミ生息調査			2	10	24	浅川小講演会・紙芝居上演			70
	8	7	監視カメラ設置作業			3						
	8	9	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	11	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	15	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	17	ゴマシジミ生息調査			3						
	8	18	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	20	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	23	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	25	ゴマシジミ生息調査			2						
	8	31	ゴマシジミ生息調査			2						
一年間の活動・参加者数										127		
成果・課題	≪活動の成果・課題≫ 生息数は現状維持(1日最大18匹の個体を確認)だったが、活動をつづけ生息環境の観察とゴマシジミの生態系の研究を更に取り組み将来への布石としたい。また地元の資産として子供から大人まで感心をもってもらい継続性のある活動を目指したい。そのために浅川小の児童の育てたワレモコウを移植する活動や紙芝居の上演活動を行うことができた。											
長野市協力課等			取組内容									
長野市開発公社			長野市霊園での保護活動									
浅川小学校			4年生に講演。地元ニコニコ一座による紙芝居上演。									

令和元(2019)年度活動報告書													
プロジェクト名				田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト									
理想の街	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域作り・協力し支え合う地域・まち												
数値目標	(前期)これまで関わったすべての参加者の公園作りとなるように、アンケートを採り、結果を返し、みんなで練り上げる作業を重ねて参加者が「こういう風な散策路を作りたい」と思える構想を練る。途中、構想の固まった部分から散策路を実際に作り始める。(7月29日・30日) 10月来春咲くように花壇作りをすると共に、散策路も作り続ける。後半冬場は桜公園祭りの準備をしながら春を待つ。3月初め、秋に花壇作りをし植えた福寿草・水仙・チューリップなど春の花を楽しみつつ、散策路作りを進め、桜公園祭りで、散策路のお披露目をする。参加目標300名												
行動計画	(前期)4月桜祭りの実施 5月東屋づくりの計画を立てる。7月～10月東屋作り。 10月下旬完成式(後期)春のイベント公園祭り・お花見界の計画作りと準備・実行 参加目標300名												
活動計画	案の募集 設計 検討 作成を一貫しておこなう。												
活動実績	月	日	内容		人数	月	日	内容		人数			
	6	12	国際学生ボランティア協会学生受け入れ打診。県より		1	2	24	コロナ感染を考え、桜祭りなど春の行事開催検討		6			
	7	3	受け入れ検討協議		6	3		桜祭り中止を知らせる桜便りを作成配布		4			
		10	学生ボランティア案内チラシ作成		2	4		桜だより作成配布		4			
		12	チラシ配布		4								
		20	実行委員会結成・作業分担		15								
	8	1	準備状況確認		15								
		4	前日準備作業		20								
		5	学生ボランティアと共同作業		75								
	9	7	秋の花壇作成計画協議		6								
	10	14	秋の花壇作成原案検討・決定		6								
		20	花壇づくり呼びかけチラシ作成配布		4								
		28	花壇づくり事務局協議		6								
	11	初旬	球根・苗の準備活動		9								
		28	花壇づくり作業当日		20								
一年間の活動・参加者数										203			
成果・課題	《活動の成果・課題》 思わぬ新型コロナウイルス感染防衛のため、年度末恒例となった桜公園祭りを開催できなかったことは残念だが、年度初めの計画にはなかった国際学生ボランティア協会の学生のボランティアを受け入れ、里山の管理共同作業および交流が持てたことは思わぬ計画外の成果であった。作業ばかりでなく、桜公園の整備から出た端材を使って子供たちが工作体験をしたこともよかった。この影響で、計画縮小をしたこともある。東屋の設計図作成、計画推進や、桜公園散策路づくりは手をつけられなかったが、来年度に実現したい。散策路づくりはできなかったが、花壇づくりは11月末の寒い風の吹く平日の午前中にも関わらず20名が参加して行われた。そこに至るまで、会員が球根を集めたり、苗を吟味して購入したり、場所の選定と一定の耕しなどの下準備があつてなされたことも忘れられない。桜公園隣接地に、所有者が東京に住んでおられ放置された竹林の、隣接住居に狸が出入りし荒らすということが起き、土地所有者の了解の元、私どもは市のしか対策課に相談。緩衝帯設置事業をしていただくことに。年明けの2月業者による伐採が行われた。被害を受けていた区民から喜ばれた。私どもは、桜公園隣接地ということもあり、所有者と今後協議を進め、桜公園に組み入れて、管理を行う方向を進めている。この案件も来年度の課題に組み入れて、今年度予定外の影響でできなかった課題も進めたい。また、国際学生ボランティア協会から受け入れを要請され												
長野市協力課等				取組内容									
いのしか対策課				桜公園隣接放置竹林の、緩衝帯事業									

令和元(2019)年度 ながの環境パートナーシップ会議 収支決算書

収入合計	2,273,732 円
支出合計	1,213,049 円
差引額	1,060,683 円

収 入

単位:円

内 容	元年度予算額	流 用 額	予算現額	収入済額	収入済額－予算現額	内 訳
I 負担金・会費	1,090,000		1,090,000	1,071,000	△ 19,000	
1 負担金・会費	1,090,000		1,090,000	1,071,000	△ 19,000	長野市負担金1,000,000円、会費
II 事業収入等	440,000		440,000	864,526	424,526	
1 事業収入	380,000		380,000	798,520	418,520	バナー広告料、トヨタ環境活動助成プログラム助成金R2分(565,000円)、緑の公募事業交付金(129,950円)
2 雑収入	60,000		60,000	66,006	6,006	寄付金(66,000円)、預金利息
III 繰越金	338,206		338,206	338,206	0	
1 繰越金	338,206		338,206	338,206	0	
合 計	1,868,206	0	1,868,206	2,273,732	405,526	

支 出

単位:円

内 容	元年度予算額	流 用 額	予算現額	支出済額	予算現額－支出済額	内 訳
I 活動費	118,000	-57,000	61,000	34,010	26,990	
1 自主事業活動費	60,000	-57,000	3,000	1,050	1,950	ながの環境団体大集合(中止)
2 共催・参加事業活動費	58,000	0	58,000	32,960	25,040	長野エコ活動推進本部、ライトダウンキャンペーン、信州環境フェア、山の日イベント、地域まるごとキャンパス
II プロジェクト活動費	1,210,100	57,000	1,267,100	1,044,335	222,765	
1 .生ごみ削減・再生利用	298,000	57,000	355,000	354,098	902	
2 レジ袋使用削減	132,000	0	132,000	118,968	13,032	
3 市民の森づくり	286,000	0	286,000	285,969	31	
4 太陽エネルギー普及促進	30,100	0	30,100	0	30,100	
5 聖山自然復元	0	0	0	0	0	
6 子どもの環境学習支援	10,000	0	10,000	8,807	1,193	
7 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	0	
8 小生物の育成環境保全	234,000	16,000	250,000	249,360	640	
9 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	40,000	-16,000	24,000	0	24,000	
10 ぽんすけ育成	40,000	0	40,000	0	40,000	
11 ゴマシジミ保護・育成	40,000	0	40,000	0	40,000	
12 田中さくら公園作り&里山づくり	50,000	0	50,000	27,133	22,867	
13 新規プロジェクト	50,000	0	50,000	0	50,000	
III 保険料	59,500	0	59,500	54,600	4,900	
1 保険料	59,500	0	59,500	54,600	4,900	ボランティア活動保険料
IV 広報費	382,800	0	382,800	59,060	323,740	
1 啓発・報告書等費	305,000	0	305,000	36,000	269,000	新聞広告掲載料
2 ホームページ維持費	77,800	0	77,800	23,060	54,740	ホームページサーバー利用料
V 事務局費	74,820	0	74,820	21,044	53,776	
1 事務局運営費	74,820	0	74,820	21,044	53,776	振込手数料、郵送料
VI 予備費	22,986	0	22,986	0	22,986	
1 予備費	22,986	0	22,986	0	22,986	
合 計	1,868,206	0	1,868,206	1,213,049	655,157	

監 査 報 告 書

令和2年6月/ 日

ながの環境パートナーシップ会議

代表理事 金 井 三 平 様

ながの環境パートナーシップ会議

監 事 小山 勝宏



監 事 小林 清一



私たちは、令和元年6月1日から令和2年5月31日までの令和元年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査方法の概要

- (1) 会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて収支決算書及びその附属明細書並びに財産目録の正確性を検討した。
- (2) 業務監査については、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 収支計算書及びその附属明細書は、令和元年度の収支状況を正しく示しているものと認める。
- (2) 財産目録の内容は真実であると認める。
- (3) 事業報告書及びその附属明細書の内容は真実であると認める。
- (4) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは会則に違反する重大な事項はないと認める。

以上

令和 2 (2020) 年度運営方針 (案)

ながの環境パートナーシップ会議 代表理事 金井 三平

ながの環境パートナーシップ会議 (以下「P 会議」という) は、「アジェンダ 21 ながの - 環境行動計画 - 2018」 (以下「アジェンダ 21 ながの」という) に掲げる長野市の環境ビジョン『山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの』の実現に向けて行動します。

令和元 (2019) 年度は、世界がよりよい未来を迎えるために果たす目標として、国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」 (以下「SDGs」という) ※の達成を地域からパートナーシップで実現するため、P 会議及び各プロジェクトチームが SDGs 達成への貢献を意識しながら環境活動を推進しました。しかし、令和元年東日本台風や新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、活動が困難だった年でもありました。

令和 2 (2020) 年度は、活動を停滞させることなく、更に SDGs への理解を深めるため、P 会議及び各プロジェクトチームが SDGs 達成への貢献を意識しながら環境活動を推進していきます。

また、プロジェクトサポーター制度を推進するとともに、活動成果報告書やホームページ、SNS などの広報ツールを活用し、事業者を含む新規会員を確保することで、P 会議の活性化を更に進めていきます。

「つなぐ・伝える・行動する」活動は、市民・事業者・行政との協働を拡大させ、「持続可能な P 会議」とするために継続して取り組みます。

具体的な行動として

1 「アジェンダ 21 ながの」を推進します

「アジェンダ 21 ながの」に基づき、長野市域で環境問題に取り組む市民・事業者・団体・行政との更なる協働による環境活動を推進します。

令和 2 (2020) 年度は、P 会議と各プロジェクトの連携強化による活動の充実 (行動する) に併せ、その活動を広く発信 (伝える) し、次世代につながる (つなぐ) 成果の見える行動により、環境ビジョンの実現を目指します。

(1) P 会議とプロジェクトチームの連携強化と環境活動の充実を図ります (行動する)

「アジェンダ 21 ながの」の趣旨に沿った活動に取り組む外部団体・事業者との共催や参加などを通じ、協働の拡大を図ります。

① 主催事業の開催

令和2（2020）年度は、昨年度開催することができなかった、ながの環境団体大集合について、若者が参画するスペシャルプロジェクトチームを早期に組織し、団体・事業者・学校やプロジェクトチームなどの環境活動を「つなぐ・伝える・行動する」場として、各団体の活動の相互理解が推進され、更には、新規会員の入会につながるよう、充実した主催事業を展開します。

② 他団体との共催・参加・支援

各団体との共催や環境活動へ参加及び支援を通じて、若い世代や市民・事業者などにP会議の活動を広く発信し、協働による活動の参加を呼びかけます。

（例）信州環境フェア、長野市環境こどもサミット、ライトダウンキャンペーン、アレチウリ駆除作業、ごみひろい運動、山の日ウォーキング、信州大学地域環境演習、地域づくり出合いのひろば、地域まるごとキャンパスなど

③ 理事会とプロジェクトチームの連携強化

理事会とプロジェクトチームの連携を強化し、一体となって環境活動を進めていくため、合同会議を適宜開催します。理事会がプロジェクトチームの活動を把握し、各プロジェクトの連携等助言及び支援することでプロジェクトチームの活動の充実を図ります。

④ 「脱 使い捨てプラスチック」を目指すための調査研究

プラスチックゴミによる海洋汚染の懸念から使い捨てプラスチック製品の使用削減が世界的に進んでいることを受け、長野市域におけるリユース食器の導入・普及促進やライ麦によるストローの製造・普及促進などについて調査研究を関係機関とともに進めます。

⑤ 気候変動によって発生する問題の解決に向かった取り組み

長野市の台風19号による千曲川の浸水被害は甚大なものであり今後も起こりうることを考えられます。二酸化炭素を減らすために市民・事業者・行政のそれぞれが危機感を持って再生可能エネルギーを積極的に導入し森林や里山、水環境資源の適切な管理を行うことを目指します。

（2）ながの環境パートナーシップ会議の活動を広く発信します（伝える）

P会議及びプロジェクトチームの活動状況と成果を活動成果報告書「手をむすんで」にまとめ、P会議の活動をより積極的にアピールします。また、ホームページなどに加えて、SNS（フェイスブック）を活用し、市民・事業者・団体などに広く情報発信を行ない、環境意識の啓発に努めるとともに新規会員の入会につなげます。

（3）次世代につながり成果の見える活動を行います（つなぐ）

目標である長野市の環境ビジョンの実現に向けた活動を強化するため、プロ

ジェクトサポーター制度を更に推進し、団体や事業者との協働の拡大を図るとともに、世代をつないだ活動基盤を構築するため、特に次世代の若者との協働による活動を進めます。

2 持続可能な環境パートナーシップ会議を目指します

P会議の活動が今後も持続するために、次の項目を実施します。

(1) プロジェクトチームを充実・拡大します（行動する）

自由な発想で楽しみながら取り組める環境活動の提案を積極的に受け入れ、P会議の新規プロジェクトとして立ち上げていくなど組織の拡充を図ります。

(2) 仲間づくりの推進と会員の増員を図ります（行動する）

充実した環境活動を行っていくためには、市民・事業者・専門家・若者など、多様な知見・能力を有している方々の集積が必要です。会員・プロジェクトチーム・理事会が協力し、また、それぞれの立場で仲間づくりを進めるとともに、会員の増員を図ります。

(3) 新規会員等を対象にした研修会を開催します（行動する）

P会議の活動をより理解していただくとともに、協働による事業展開を推進していくため、引き続き新規会員や事業者を対象にした研修会を開催します。

(4) 充実した活動を実行するために活動資金を確保します（行動する）

市負担金の増額をお願いするとともに、各プロジェクトチームでの環境活動支援団体の助成金、企業等からの寄付金・協賛金を積極的に活用します。

※【 参 考 】

SDGsとは・・・

2015 年(平成 27 年)9月、国連において、新たなアジェンダとして「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人類の発展や地球の繁栄のため 2030 年までに達成すべき行動計画として、宣言と目標を掲げたものです。

この目標が「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals 略して SDGs(エスディー ジーズ))」であり、これまでのアジェンダ 21 やミレニアム開発目標(MDGs)」などの理念と成果を 土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける 17 の目標と 169 の行動計画で構成 され、「誰一人取り残さない」という理念のもと、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途 上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。



◎令和2年度活動目標・活動計画・予算書(案)

	ながの環境パートナーシップ会議(事務局)								
理想の街 (目指す姿)	山にみどり・川に清流・谷に風・空に星 自然と和して発展するまち・人のくらし みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの								
R2	目標・数値目標 ※()内は環境基本計画の目標数値 地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,000人(4,500人)			行動計画 ・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
	目標・数値目標 ※()内は環境基本計画の目標数値 地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,200人(4,600人)			行動計画 ・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
R3	目標・数値目標 ※()内は環境基本計画の目標数値 地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,400人(4,700人)			行動計画 ・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
	目標・数値目標 ※()内は環境基本計画の目標数値 地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐ／ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 5,400人(4,700人)			行動計画 ・アジェンダの進捗管理を通じ、環境保全活動を推進していく。 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「行動する」活動を充実させる。					
数値目標 (長期)	環境保全活動参加者数:4,700人(第2次長野市環境基本計画 後期計画R3年度目標値)			令和2(2019)年度目標活動参加人数					
				5,000 人					
(支出の部)									
	区 分		実施予定	予算額	内 訳	金額:円			
本年度活動計画	A	活動費	未定	95,000	1. 自主事業活動費	60,000			
			未定		ながの環境団体大集合	30,000			
			未定		公開学習会	30,000			
			6月		2. 共催・参加事業活動費	35,000			
			10月		長野エコ活動推進本部年会費	3,000			
			10月		山の日ウォーキング	10,000			
	B	保険料	通年	60,000	ライトダウンキャンペーン参加負担金	20,000			
			3月		地域まるごとキャンパス参加費	2,000			
			通年	60,000	1. ボランティア保険(年@350×170人)	59,500	59,500		
			C	広報費	通年	145,000	1. 啓発・報告書等費	120,000	
					通年		レジ袋啓発活動用パンフレット印刷費	80,000	
					通年		広告料(新聞)	40,000	
	通年				2. ホームページ維持費	25,000			
	D	事務局費	通年	85,000	レンタルサーバー利用料・ドメイン利用料	9,000			
			通年		facebook管理費	16,000			
			通年	85,000	1. 事務局運営費	84,500			
通年				事務消耗品費・振込手数料	20,000				
E	予備費	通年	392,683	活動成果報告書送料(@250×50人)	12,500				
		通年		R1総会通知(出欠席葉書・郵送料)	26,000				
		通年		R2総会通知(出欠席葉書・郵送料)	26,000				
		通年		1. 予備費	178,683	178,683			
支出予算額合計			777,683	2. 助成金 トヨタ環境活動助成R3.6～12分	214,000	214,000			
				支出積算額合計	562,683				
(収入の部)									
	区 分		実施予定	予算額	内 訳	金額:円			
本年度活動計画	A	負担金・会費	通年	1,091,000	会費(@500×182人)	91,000	1,091,000		
			通年		市負担金 1,000,000円	1,000,000			
			通年	698,000	1. 事業収入	210,000			
	B	事業収入等	通年		ホームページバナー(@15,000×4社)	60,000			
			通年		緑の募金公募事業	150,000			
			通年		2. 雑収入	59,505			
			通年		寄附金	59,500			
			通年		利息等	5			
			通年		3. 助成金	428,000			
	C	繰越金	通年	1,060,683	トヨタ環境活動助成プログラム	428,000			
			通年		1. 前年度繰越金	1,060,683	1,060,683		
	収入予算額合計						2,849,683		

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		生ごみ削減・再生利用プロジェクト			
理想の街 (目指す姿)		・市民一人ひとりが地球環境の悪化を懸念し、ごみの削減・再生利用につとめ、排出量は以前と比べ大幅に減っているまち ・生ごみの大半がリサイクルされ有機循環システムの推進、可燃ごみが大幅に減少しているまち ・地域ごとに多くの市民が生ごみの減量化・再資源化に取り組む地域循環型のまち			
R2	目標・数値目標		行動計画		
	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増(目標値50名)を目指し、収穫祭などで生ごみと野菜の交換市を充実させる。堆肥製造量の目標値は、800tを目指す。また、野菜と堆肥の販売により自主財源確保する。自主財源率は予算の10%を目標値とする。 ・長野市の生ごみ減量の数値目標としては、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合35.8%を目指すよう応援する。(今年はコロナ感染の自粛生活で生ごみ総量が増える可能性あり厳しい)		・アモーレフェスタなどに出展し生ごみ減量活動の周知と市民への啓発に努める。 ・キッズ生ごみ農園では、子育て世代の家族会員を増やし、親子で参加型の共同農場とする。会員には、生ごみを持参してもらい、共に生ごみ堆肥を作製し農作物栽培に活かす。出来た野菜などは、生ごみや一時生成物と交換する。収穫祭では、会員活動の充実を図り、生ごみ堆肥の価値を知らしめる。また、自主財源獲得のため軽トラ市等で、野菜などと共に生ごみ堆肥の販売もする。 ・麦の試験栽培(ホワイトファイバー・しゅんらい)を続け、麦ストローの生産に適した穂を探し、脱プラスチック運動に活かす。麦の実は、もち麦と麦茶に加工して会員に配布し、残りは販売する。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増を目指し、収穫祭や野菜と生ごみの交換市を充実させる。また、野菜と堆肥の販売により自主財源確保する。 ・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.5%に削減する。		・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう展示活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜の交換市を周知発展させる活動 ・生ごみ農園クラブ農場の維持管理と自立活動。 ・子供のための一坪農園とミズコンポストを食農教育・環境教育を発展させる。		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	・生ごみの堆肥化と再生利用を地域住民と一体になって取り組める方法を模索し実践する。 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員増を目指し、収穫祭や野菜と生ごみの交換市を充実させる。また、野菜と堆肥の販売により自主財源確保する。 ・数値目標は、可燃ごみ総量に対する生ごみの割合を35.3%に削減する。		・生ごみ堆肥化による生ごみ減量の啓もう展示活動 ・キッズ生ごみ農園クラブの会員募集、生ごみと野菜の交換市を周知発展させる活動 ・生ごみ農園クラブ農場の維持管理と自立活動をさらに展開する。 ・子供のための一坪農園とミズコンポストを食農教育・環境教育を体系的に実施できるようにする。		
数値目標 (長期)	可燃ゴミにに対する生ごみの割合を35%以下(食品ロスを含む)		令和2年度目標活動参加人数		
			1000	人以上	
区分		予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	他団体等への働きかけ ・各地区自治協等の地縁団体通じて地域住民への啓蒙活動 ・生ごみ堆肥化講座と生ごみ堆肥で育てた野菜のお料理教室(エコ料理)(春・秋の年2回×2自治協)	5月～9月	住民自治協等向けのパンフ	10,000
				花や野菜栽培の見本の作成と教材費(コンテナ・用土・基材・苗等)	16,000
				食材の補助	2,000
	B	市民への啓発 ・展示、講習会(〇〇環境フェア・アモーレフェスタなど)で使用 ・大豆島地域の地縁団体への働きかけ	6月～12月	生ごみチームのパンフレット(1000部)	15,000
				コンテナ栽培見本作成	15,000
				「生ごみ堆肥による地域循環」チラシ	5,000
	C	キッズ生ごみ農園クラブ ・家族会員(25家族目標)等を募集し一次生成物及び生ごみの受入れ ・生ごみ堆肥の製造と農作物を作る活動(堆肥場の整備とミズコンポストの分別) ・春・夏・秋に収穫祭の実施 ・麦ストロー作製のための機材 ・麦脱穀機 ・精麦・製粉 ・中古耕運機・草刈り機(被災により消失) ・燃料代 ・地代(昨年まで30,000円)	通年	会員募集用チラシ3000部	15,000
				堆肥場の拡張整備と堆肥製造	25,000
				生ごみ堆肥の基材・種苗代	27,600
				ミズコンポストの拡充と堆肥フレイ機材	50,000
				収穫祭用チラシ1000部	5,000
				保険代(@50×350)	17,500
				麦茎切断機、乾燥殺菌機、洗浄機、	90,000
				レンタル	10,000
				麦茶・もち麦に加工	8,000
				圃場の耕作・農場の草刈り	140,000
				ガソリン代・軽油代・混合油	40,000
				202年6月～2021年6月	15,000
	D	月例ミーティングと農作業打合せ ・生ごみ削減・再生利用の市民への啓もう・地縁団体への生ごみ堆肥利用の推進 ・生ごみ堆肥作製の講習会の企画、運営	通年	資料代(印刷費)	10,000
				生ごみリサイクル全国ネット会費	1,000
支出合計					517,100
区分(収入の部)					
A	収穫祭の参加費500×20	5月～11月	収穫祭(野菜・軽食・保険代)		10,000
B	野菜などの販売	6月～12月	軽トラ市、朝市など3回		10,000
収入合計					20,000

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	市民の森づくりプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち				
R2	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに500人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	前年以上の市民、他団体との連携を図る 市民の森づくりに600人以上の参加者を得る 安全作業に徹し、“ゼロ災”とする		・里山の大切さや山の恵みを利用する楽しさを理解・実感し、多くの人に参加してもらい、森林整備、林業講座、自然観察会、山遊び、学習会、など多様性に富んだ活動を行い、また活動の広がりの検討を重ねる。 ・地元住民との交流や多くの他団体、個人、事業者との連携を図る。 ・参加人数の増加も大切な事ではあるが、本会としては、安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業にあたる。		
数値目標 (長期)				令和2年度目標活動参加人数	
				500人以上	
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	森林整備 林業講座	4月～12月	消耗品費(チェーンソー替刃、刈払機の替刃等)	40,000
				燃料費(チェーンソーのガソリン、オイル等)	30,000
				ユニック車他レンタル料金	40,000
				製材機整備(簡易製材機修理代)	120,000
				製材小屋材料費(鋼材等)	20,000
				製材機材(自動カンナ)	90,000
	B	秋の里山散策	10月	材料費	10,000
	C	きのこのコマ打ち体験会	4月	きのこの種駒等	18,000
	D	工作・自然観察会 かんじき体験会	6月～10月 3月	かんじき材料(麻縄、針金等)	15,000
				工作用材料(ボンド、マジック、金具等)	30,000
				保険料(里山散策、コマ打ち体験会含む)	6,000
	E	傷害・賠償保険料	年間	保険料	60,000
	F	会議用資料代	年間	コピー、印刷費等	10,000
	支出合計				489,000
	区分(収入の部)				
	A	秋の里山散策(B)	10月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
	B	きのこのコマ打ち体験会(C)	4月	参加費(保険料)(@200×20)	4,000
	C	かんじき体験(D)	2月	参加費(保険料、材料費)(@1000×15)	15,000
	収入合計				23,000

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		太陽エネルギー普及促進プロジェクト					
理想の街 (目指す姿)		資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽光発電など、再生可能エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力のあるまち					
R2	目標・数値目標			行動計画			
	・太陽光を元にしたエネルギーの普及啓発に関する活動を行う。(参加者数50名) ・太陽光エネルギーの先進地の見学学習を行い、長野市の太陽光エネルギーの普及啓発につなげる。(1か所)			・小中学生の集まる環境イベントへの出展を行う。 ・県内の先進地域として上小地域への見学学習を行う。			
R3	目標・数値目標			行動計画			
	・太陽光を元にしたエネルギーの普及啓発に関する活動を行う。(参加者数75名) ・太陽光エネルギーの先進地の見学学習を行い、長野市の太陽光エネルギーの普及啓発につなげる。(1か所)			・小中学生の集まる環境イベントへの出展を行う。			
R4	目標・数値目標			行動計画			
	・太陽光を元にしたエネルギーの普及啓発に関する活動を行う。(参加者数100名) ・太陽光エネルギーの先進地の見学学習を行い、長野市の太陽光エネルギーの普及啓発につなげる。(1か所)			・小中学生の集まる環境イベントへの出展を行う。			
数値目標 (長期)					令和2年度目標活動参加人数		
					30人以上		
	区分	予算(支出の部)		予定月	説明	金額	
本年度活動計画	A	先進地域状況調査(上田市)		9～10月	交通費 自家用5台×片道60km×往復×20円	12,000	
					高速道路料金 900円×5台×往復	9,000	
					案内謝礼 3,000円×3カ所	9,000	
	B	環境啓発イベント出展		通年			
	C						
	D						
	支出合計						30,000
	区分	(収入の部)					
A							
B							
収入合計						0	

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		子どもの環境学習支援プロジェクト				
理 想 の 街 (目 指 す 姿)		こどもエコクラブで主に小学生が親と一緒に活動し、中高生になったら「ながのユースクラブ」で自主的に環境活動をおこない、環境団体との連携も図られているまち				
R2	目標・数値目標		行動計画			
	第9回国際ユース環境会議の参加者 20名		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	第10回国際ユース環境会議の参加者 40名		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。			
R4	目標・数値目標		行動計画			
	第11回国際ユース環境会議の参加者を増やす		国際ユース環境会議を開催し、長野の環境団体との連携を図る。			
数 値 目 標 (長 期)		ユースの自主的な活動組織「ながのユース(国際環境)クラブ」が形成されている		令和2年度目標活動参加人数		
				20 人以上		
	区分	予算(支出の部)	実施予定	説 明	金 額	
本年度活動計画	A	第9回国際ユース環境会議の負担金		講師謝金	20,000	
	B					
	C					
	D					
	支出合計					20,000
	区分	(収入の部)				
	A					
	B					
	収入合計					0

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名 小生物の育成環境保全プロジェクト					
理想の街 (目指す姿)	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。				
R2	目標・数値目標		行動計画		
	- 小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。 - 市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。 - 小中学校及び一般市民対象の観察会を恒常的に開催する。		小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	- 小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。 - 市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。 - 小中学校及び一般市民対象の観察会を恒常的に開催する。		小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	- 小学生・中学生の総合学習の時間を使い観察会を年数回実施する。 - 市民に理解を計るため観察会を実施し啓発活動をする。 - 小中学校及び一般市民対象の観察会を恒常的に開催する。		小中学校観察会恒常的に行うシステムの構築。		
数値目標 (長期)	竹ノ入を中心にした学習林を軸に長野市の豊かな自然環境の保全を市民が共有できる環境思想の向上を図る。 オオムラサキの保全を通して、多くの人が環境問題に関心を持つよう活動を推進する。			令和2年度目標活動参加人数	
				500 人以上	
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	竹ノ入り整備作業外来植物除伐作業に使用	5月～翌年 6月	チェーンソー 1台、刃 1本	95,000
		チェーンソーに使用		チェーンソーオイル 7本	7,000
		竹ノ入り整備作業に使用		刈払機の刃 10枚	35,000
		小生物保護活動に使用		照明器具、金網	26,000
		小生物保護活動に使用		オオムラサキ・小生物飼料	3,000
		「マツシロヘニエドヒガン」育苗(300本)		肥料(化成肥料) 5袋	5,000
		保安箱の設置、飼育舎の整備		保安箱、ハウス用 小物類、	180,000
	B	「マツシロヘニエドヒガン」「フジバカマ」育苗・植樹に使用	5月～翌年 6月	エドヒガン培養土40㍓入50袋	30,000
		チェーンソー及び草刈り機に使用		燃料(ガソリン・混合油)	30,000
		「マツシロヘニエドヒガン」育苗地及びフジバカマ・ウイキョウ植栽地借地料		借地料(西澤宅)	10,000
	C	共通事項(事務費等)	5月～翌年 6月	葉書代	30,000
		総会資料印刷代 他		インク・コピー用紙等	35,000
		作業時飲料水代		作業時飲料水代	10,000
		総会・役員会の会場費		会場費	10,000
		観察会に使用するマイクセット		マイクセット	15,000
		理事会・その他イベント参加の交通費		交通費	10,000
	D	コロナ感染症対策(観察会等)		アルコール・フェイスガード等	5,000
	支出合計				536,000
	区分	(収入の部)			
	A				
	B				
	収入合計				0

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		生態系豊かな、水に親しめる川づくり(水環境保全)プロジェクト			
理想の街 (目指す姿)		自然豊かにして清らかな川は大気土壌と動的平衡を保ち生物の多様性を潤す			
R2	目標・数値目標		行動計画		
	①活動の復活と新規事業の開発。 ②他団体の活動への参加		①長野市主催の環境学習会 水生生物調査「夏の川遊び1,2」への参加 ②公開学習会2020及びながの環境団体大集合への参加。		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	チーム独自の活動の実施		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
R4	目標・数値目標		行動計画		
	チーム独自の活動の実施		前年度の実施事業の課題等を検討し、目標を達成するために行動する。		
数値目標 (長期)				令和2年度目標活動参加人数	
				人以上	
	区分	予算(支出の部)	予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び1, 2」への協力	7～8月	胴付長靴	20,000
	B	公開学習会への参加 長野環境団体大集合絵の参加	10～12月	写真資料代	10,000
	C	運営費(市内小中学校や他チームとの連携)	通年	ガソリン代(500×4台×5人)	10,000
	D				
	支出合計				
区分	(収入の部)				
A					
B					
収入合計					0

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	ぼんすけ育成プロジェクト					
理想の街 (目指す姿)	里山に生息する絶滅危惧種の多くは、市街地の開発された平野部に生息していた身近な生き物であった。つまり、開発によって生息場所を追われ、里山にかりうじて生き残っているといえる。過疎の進行した里山で絶滅危惧種の保全の問題を解決することは難しい。ぼんすけ(シナイモツゴ)をシンボルとして、里山の役割と現状を市街地住民にも知ってもらい、里山と市街地の市民が保全目標を共有できる街にしたい。					
R2	目標・数値目標			行動計画		
	・観察会と勉強会の開催 ・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培 ・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売 ・ぼんすけ保全池の整備の開始 ・数値目標は、自然観察会等の参加者数400名とする。			・シナイモツゴ自然観察会の実施 ・稲作と林檎の栽培 ・ブランド農産物の販売 ・ため池の保全活動(ため池の調査含む) ・定例会や講演会の開催		
R3	目標・数値目標			行動計画		
	・観察会と勉強会の開催 ・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培 ・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売 ・ぼんすけ保全池の整備の開始 ・数値目標は、自然観察会等の参加者数400名とする。			・シナイモツゴ自然観察会の実施 ・稲作と林檎の栽培 ・ブランド農産物の販売 ・ため池の保全活動(ため池の調査含む) ・定例会や講演会の開催		
R4	目標・数値目標			行動計画		
	・観察会と勉強会の開催 ・ぼんすけ田圃とぼんすけ林檎の栽培 ・ぼんすけの生息する里山で収穫された農産物(米と林檎)の販売 ・ぼんすけ保全池の整備の開始 ・数値目標は、自然観察会等の参加者数400名とする。			・シナイモツゴ自然観察会の実施 ・稲作と林檎の栽培 ・ブランド農産物の販売 ・ため池の保全活動(ため池の調査含む) ・定例会や講演会の開催		
数値目標 (長期)	いい自然を守る～シナイモツゴも人もうれしい～そんな共生と呼ばれるような環境保全を目指していきます。			令和2年度目標活動参加人数		
				400人以上		
	区分	予算(支出の部)		予定月	説明	金額
本年度活動計画	A	啓発活動 勉強会及び講演会の開催(冬期間)		1～3月		
	B	ため池の保全管理 シナイモツゴ生息地の維持管理活動(草刈等)		4～10月		
	C	定例会開催(毎月第3水曜日13:30～信里合同庁舎) 定例会(講演会)開催に伴う費用		通年		
	D					
支出合計						0
区分	(収入の部)					
A						
B						
収入合計						0

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト				
理想の街 (目指す姿)	「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさで体験できる環境整備」の推進を図っていく。				
R2	目標・数値目標		行動計画		
	* 専門家等による講習会及び学習会の実施 * 紙芝居の作成及び上演 * ワレモコウの育苗・植栽・保護 * 捕獲禁止の立て看板の作成・生息地への設置 * 生息地内のパトロール・注意喚起 * 生息地周辺の草刈り・間伐 * 生息地範囲の杭打ち 参加者:100人(年間)		1) 専門家等による講習会及び学習会の実施 2) 紙芝居の作成及び上演 3) ワレモコウの育苗・植栽・保護 4) 捕獲禁止の立て看板の作成・生息地への設置 5) 生息地内のパトロール・注意喚起 6) 生息地周辺の草刈り・間伐 7) 生息地範囲の杭打ち		
R3	目標・数値目標		行動計画		
	* 生息地の草刈り・間伐 * 生息地周辺パトロール * ワレモコウ育苗・植栽 * 植栽地状態の観察・研究 				

◎令和2(2020)年活動目標・活動計画・予算書

プロジェクト名		田中桜公園作り&里山づくりプロジェクト				
理想の街 (目指す姿)		若槻地区田中の桜公園作りを推進力に里山を里山らしく利用、保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育成 定着する持続可能な地域作り・協力的な地域・まち				
R2	目標・数値目標		行動計画			
	(前期)「こういう風な散策路を作りたい」と思える構想を練る。次に、構想の固 まった部分から散策路を実際に作り始める。8月、昨年度の学生ボランティア団 体が今年も来ることになれば、一緒に散策路設置整備の活動に参加をお願い する。 今年は、夏咲きの花壇づくりを行うとともに、春咲きの花壇も充実するよ うに花壇づくりを行う。また、東屋づくりの計画を練る。 (後期)冬場は桜公園祭りの準備をしながら春を待つ。3月初め、散策路作り・い のしか被害防止のためネットで桜の樹皮を守る。4月桜祭り実施。 参加目標250名		①散策路整備活動＝事務局案を提示し、意見を募り反 映させて一部着手 夏できれば学生ボランティアととも に ②花壇づくり＝夏・秋咲き花壇の作成 意見を募集・日 時を決め、花壇づくりを行う。 ③東屋づくりの計画＝設計図を作り、材料および資金 の計画を立てる。 ④来春の桜祭りの計画・準備・実行			
R3	目標・数値目標		行動計画			
	参加目標300名 (前期)東屋設置5月～8月 (後期)散策路の拡充・花壇拡充 桜祭り実施に合わせ、東屋披露		"5月から8月 東屋づくりに取りかかる" 一部の大人 だけの作業とセル、安全に配慮しながら子供たちので きる活動を考え出し、みんなが参加し作った充実感を生 み出す。 "10月から4月 散策路の拡充・花壇の拡充に取り組 む。" 桜祭りで東屋披露式 ベンチ設置、用水路改修・抜根			
R4	目標・数値目標					
	参加目標250名 (前期)散策路にベンチ設置、花壇の充実、案内板設置計画(後 期)桜公園拡大のため、桜植樹計画と苗木申請、苗木の植樹会。桜祭りの準備 と実施		散策路・ベンチを製作設置桜植樹第3次計画実施。相 談協議、各種申請。桜オーナー募集			
数値目標 (長期)	300名 パートナースhip会員50名			令和2年度目標活動参加人数		
				250 人以上		
	区分	予算(支出の部)	予定月	説 明	金 額	
本年度活動計画	A	散策路階段設置整備	8月から10 月	防腐剤	6,000	
				固まる砂 10袋	6,000	
				防草シート	2,500	
				パーク 10袋	15,000	
				丸太材	15,000	
	B	学生ボランティアとともに里山および桜公園整備	8月	学生の活動の栄養補給	20,000	
	C	花壇整備育成	6月～11月	寒冷紗(福寿草用)トンネル支柱	3,000	
				夏咲き・秋咲きの球根、種	15,000	
	D	整備活動 除草・抜根・竹林処理整備 ・抜根作業 ・竹処理 兼 竹炭づくり	7月～12月	ビーバー購入	30,000	
				ガソリン・オイル・軽油代	20,000	
				混合容器・ガソリン容器	5,000	
				レスプロソー充電式 2台	40,000	
				替え刃	7,500	
				バックホーレンタル	80,000	
				炭化器	150,000	
	E	桜祭り開催活動 ・ウィルス対策	1月～4月	案内チラシ作成プリント代	5,500	
				通信費(郵便料金)	1,840	
				豚汁食材費	7,000	
				除菌スプレー	800	
				除菌ティッシュ	300	
	支出合計					430,440
	区分	(収入の部)				
	A					
	B					
	収入合計					0

令和2年度 ながの環境パートナーシップ会議 予算書

収入

単位:円

項 目	R1予算額	R1決算額	R2予算額	R2予算額－ R1予算額	説 明
I 負担金・会費	1,090,000	1,071,000	1,091,000	1,000	
1 負担金・会費	1,090,000	1,071,000	1,091,000	1,000	市負担金(1,000千円)、会費(500円×182)
II 事業収入等	440,000	864,526	698,000	258,000	
1 事業収入	380,000	233,520	210,000	△ 170,000	バナー広告料(15,000円×4社)、緑の募金公募事業(150,000円)
2 雑収入	60,000	66,006	60,000	0	寄附金、預金利子
3 助成金	0	565,000	428,000	428,000	トヨタ環境活動助成プログラム(R2分:565,000円、R3分:428,000円、合計993,000円)
III 繰越金	338,206	338,206	1,060,683	722,477	
1 繰越金	338,206	338,206	1,060,683	722,477	前年度繰越金
合 計	1,868,206	2,273,732	2,849,683	981,477	

支出

単位:円

項 目	R1予算額	R1決算額	R2予算額	R2予算額－ R1予算額	増 減 理 由
I 活動費	118,000	34,010	95,000	△ 23,000	
1 自主事業活動費	60,000	1,050	60,000	0	ながの環境団体大集合、公開学習会
2 共催・参加事業活動費	58,000	32,960	35,000	△ 23,000	長野エコ活動推進本部、ライトダウンキャンペーン、ながの環境フェア、山の日イベント、地域まるごとキャンパス
II プロジェクト活動費	1,210,100	1,044,335	2,072,000	861,900	
1 生ごみ削減・再生利用	298,000	354,098	498,000	200,000	
2 レジ袋使用削減	132,000	118,968	0	△ 132,000	
3 市民の森づくり	286,000	285,969	466,000	180,000	
4 太陽エネルギー普及促進	30,100	0	30,000	△ 100	
5 聖山自然復元	0	0	0	0	
6 子どもの環境学習支援	10,000	8,807	20,000	10,000	
7 ながのカーボンオフセット	0	0	0	0	
8 小生物の育成環境保全	234,000	249,360	536,000	302,000	
9 生態系豊かな、水に親しめる川づくり	40,000	0	40,000	0	
10 ぼんすけ育成	40,000	0	0	△ 40,000	
11 ゴマシジミ保護・育成	40,000	0	0	△ 40,000	
12 田中さくら公園作り&里山づくり	50,000	27,133	432,000	382,000	
13 新規プロジェクト	50,000	0	50,000	0	
III 保険料	59,500	54,600	60,000	500	
1 保険料	59,500	54,600	60,000	500	ボランティア活動保険料(350円×170)
IV 広報費	382,800	59,060	145,000	△ 237,800	
1 啓発・報告書等費	305,000	36,000	120,000	△ 185,000	レジ袋啓発活動用パンフレット印刷費(80,000円)、新聞広告料(40,000円)
2 ホームページ維持費	77,800	23,060	25,000	△ 52,800	レンタルサーバ、ドメイン使用料、HP維持費
V 事務局費	74,820	21,044	85,000	10,180	
1 事務局運営費	74,820	21,044	85,000	10,180	事務消耗品、振込手数料、郵送料
VI 予備費	22,986	0	392,683	369,697	
1 予備費	22,986	0	178,683	155,697	
2 助成金	0	0	214,000	214,000	トヨタ環境活動助成プログラムR3.6月～12月分
合 計	1,868,206	1,213,049	2,849,683	981,477	

※会計年度:令和2年6月1日～令和3年5月31日

ながの環境パートナーシップ会議会則の一部を改正する会則（案）要旨

ながの環境パートナーシップ会議事務局

事 項	説 明
1 改正の理由	災害や新型コロナウイルス感染拡大等の緊急事態への対応のため、改正するもの
2 改正の内容	(1) 緊急事態においては代表理事が判断し理事会の承認を得ることとで総会の書面開催ができることとする。（第27条関係）。
3 施 行 期 日	この会則は、令和2年8月6日から施行する。

ながの環境パートナーシップ会議会則の一部を改正する会則（案）

ながの環境パートナーシップ会議会則（平成21年6月25日施行）の一部を次のように改正する。

第27条中第1項の次に

「2 災害等の緊急事態において、代表理事が必要と認め理事会が承認したときには、あらかじめ通知された事項について、正会員の過半数が書面をもって表決することとで、総会が開催されたこととみなすことができる。」
を加える。

附 則

この会則は、令和2年8月6日から施行する。

新旧対照表

改正案	現 行
（書面主義） 第27条 省略	（書面主義） 第27条 省略
2 災害等の緊急事態において、代表理事が必要と認め理事会が承認したときには、あらかじめ通知された事項について、正会員の過半数が書面をもって表決することとで、総会が開催されたこととみなすことができる。	（新設）

理事 候補者名簿

(立候補届け順)

6	5	4	3	2	1
金井 三平	有金 市隆	河西 弘明	倉又 保雄	佐藤 敏夫	赤羽 和春

[任期] 令和2年8月6日～令和4年度の通常総会時まで